

患者の皆様へ

2020年1月

成田赤十字病院 産婦人科

現在、産婦人科では「腹腔鏡下子宮全摘術」に関する研究を行っています。今後の診断・治療に役立てることを目的に、当院で出産された患者さんの診療情報などを利用して頂きます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

#### 1. 研究課題名

「当院での TLH 本格導入と執刀指導状況について」

#### 2. 研究の意義・目的

腹腔鏡下子宮全摘術 (Total laparoscopic hysterectomy TLH) の対象疾患は子宮筋腫や子宮腺筋症など良性疾患が多く、働く世代に多いとされています。患者さんにとって早期退院と社会復帰をめざせる低侵襲手術はメリットが多いものとおもわれます。そのため産婦人科医にとって低侵襲手術の取得と普及、教育は急務であり、導入と安全な運営のために後方視的検討により、定期的に手術時間の変化、出血量の変化合併症の有無などを定期的に検討し、手術品質の維持、向上を目指すものです。

#### 3. 研究の方法

当科で2017年1月1日-2019年12月31日に当院で TLH を受けた患者さんの診療録を抽出し、患者さんの手術時間、出血量、合併症などを後方視的に検討いたします。

#### 4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しません。データ等は、成田赤十字病院の鍵のかかる棚で保管します。

#### 5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省、厚生労働省が定める「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成26年12月22日）に基づいて掲示を行っています。

研究実施機関：成田赤十字病院 産婦人科

本件のお問合せ先：成田赤十字病院 産婦人科 塙真輔 0476-22-2311（代表）